

教育目標

心豊かにたくましく よく遊び 未来をつくりだす子どもの育成

年度末の最終評価

自己評価
学校関係者評価

教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し

今年度は、今までとちがう幼稚園の生活であったが、保護者の方の理解を得たり、地域の方が見守ってくださったりする落ち着いた教育環境の中、子どもたちは、心やさしく穏やかに育ってきている。このような安定感が、よく遊び込む姿につながり、将来、他者と共に自分の力を発揮し、未来をつくりだしていくと考える。次年度も、この姿をもとに自立心を育んでいきたい。

学校関係者による意見・支援策

幼稚園が取り組もうとしていることを積極的に地域に発信し、いろいろな意見を参考にしていけば、より良い方向へ進んでいくと思われる。新しい取組が伝わるのには時間はかかるが、あせらずに、地域の幼稚園としての役割を担ってほしい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和2年10月 2日	学校運営協議会サンサンキッズ理事会
最終評価	令和3年 3月10日	学校運営協議会サンサンキッズ理事会

（1）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組

- ・園内研究を通して、子どもが主体的に遊ぶ姿を捉え、「やってみよう」とする姿から「もっとやりたい」につながるための環境構成や教師の援助、友達同士の遊びのつながりなどを探る。
- ・研究保育や事例検討を通して、主体的・対話的で深い学びの実現につながるように取り組む。
- ・「安心・安定」した園生活を基盤とし、一人一人が夢中になって遊び込み、自己発揮するための環境構成、学年や個々の発達に応じた教師の援助を考える。
- ・幼児一人一人の発達の特性や興味・関心、また幼児期に育てたい資質・能力を意識した教育課程の作成・見直しを図る。
- ・感動体験につながる園外保育や栽培活動・地域の方とのかかわりを大事にするとともに、遊びや生活との連続性をもった保育実践をする。
- ・幼稚園兄弟を意図的につくり、年間を通して異年齢児がかかわる機会を設定する。
- ・未就園児とのつながりが持てる機会を設定する。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・子どもの姿の変容，研究保育，事例検討，週案の反省・評価の記述
 - ・アンケート項目
- ① 「幼稚園を楽しいと感じている」
 - ② 「友達や先生とかかわることを楽しんでいる」
 - ③ 「体を動かして遊ぶことが好きである」
 - ④ 「栽培や動植物に興味・関心をもち、大切にしようとしている」

- ⑤ 「手洗い・うがいや持ち物の始末，着替えを自分でしようとしている」
- ⑥ 「教職員は一人一人の子どもを大切にし，温かいかわりをしている」
- ⑦ 「園の教育方針や子どもの遊びや生活の様子が伝わっている」

中間評価

各種指標結果

- ・子どもの姿の変容，研究保育，事例検討・週案の反省，評価の記述
- ・アンケート項目

- ① 「幼稚園を楽しいと感じている」 とてもそう思う 86%・概ねそう思う 14%
- ② 「友達や先生とかかわることを楽しんでいる」 とてもそう思う 85%・概ねそう思う 15%
- ③ 「体を動かして遊ぶことが好きである」 とてもそう思う 78%・概ねそう思う 18%
- ④ 「栽培や動植物に興味・関心をもち，大切にしている」 とてもそう思う 60%・概ねそう思う 35%
- ⑤ 「手洗いうがいや持ち物の始末，着替えを自分でしている」 とてもそう思う 44%・概ねそう思う 56%
- ⑥ 「教職員は一人一人の子どもを大切にし，温かいかわりをしている」 とてもそう思う 86%・概ねそう思う 14%
- ⑦ 「園の教育方針や子どもの遊びや生活の様子が伝わっている」 とてもそう思う 65%・概ねそう思う 26%

自己評価

分析（成果と課題）

『夢中になって遊び込む子どもを育てるために～「やってみよう」から「もっとやりたい」へつながる保育を考える～』

・休園期間があったため，研究主題の共通理解を丁寧に行い，昨年度からの積み重ねを大切にできるよう意識してきた。子どもが主体的に環境にかかわり，夢中になって遊び込む姿を見取ると共に，一人一人の発達に応じた適切な援助や環境構成を見直すようにした。課題であった園庭の遊具の塗装や樹木の整備も行なった。感染予防の観点から密にならないなど制限はあったが，季節や発達に応じて安心して遊べる場所や雰囲気大切にできた。そのことが子どもの安心感を生み出し，遊びや生活に興味関心をもち，自ら試したり挑戦したりする気持ちを育むことにつながった。

・保護者アンケートの結果も良好である。自然栽培活動の取組については，保護者への伝達がもう少し必要であったと思われる。⑤については，学年によって個人差はあるが，基本的な生活習慣が子どもたちに自信と自立心を育み，自己発揮できる素地をつくることを意識し，家庭と連携していきたい。⑦に関しては，三密を避けて集まる機会が少なく，教育方針など伝えきれなかったことを反省し機会をとらえて伝えていきたい。

分析を踏まえた取組の改善

子どもが様々な心を動かし，試したり挑戦したりするための保育環境の工夫は，教職員の協力を得ることも大きい。互いにアイデアを出しながらチームとして協力する体制を大事につくってきたい。基本的な生活習慣の自立や人とかかわりが心の安定や意欲，自信につながることを踏まえ，家庭との連携を今後も深めていきたいと考える。感染予防に配慮しながら，週案の反省・評価基に，今後も子どもたちの遊びや生活が充実できるように保障していきたいと考えている。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・幼児の遊ぶ姿，自己発揮，自己充実，協同性を持とうとする姿の変容・週案の反省，評価・エピソードの検討
- ・アンケート項目

- ① 「幼稚園を楽しいと感じている」
- ② 「友達や先生とかかわることを楽しんでいる」
- ③ 「体を動かして遊ぶことが好きである」
- ④ 「栽培や動植物に興味・関心をもち，大切にしている」
- ⑤ 「手洗いうがいや持ち物の始末，着替えを自分でしている」
- ⑥ 「自分の思いを話したり友達の話の聞いたりしているか」
- ⑦ 「遊びの中で試したり挑戦したりする姿が見られるか」
- ⑧ 「絵本を見たりお話を聞いたりすることを楽しんでいるか」
- ⑨ 「幼稚園兄弟とかかわることを楽しんでいるか」
- ⑩ 「教職員は一人一人の子どもを大切にし，温かいかわりをしている」
- ⑪ 「園の教育方針や子どもの遊びや生活の様子が伝わっている」

学校関係者

学校関係者による意見・支援策

基本的な生活習慣の自立は，成長と共に身につけていく事ではあるが，子どもに任せてしまうのではなく，家庭生活の中で保護者が意識して声をかけながら，自分のことは自分でしようと思えるようにしていくことが大事である。公立幼は通園バスの送り迎えなどはないが，保護者が送り迎

最終評価

（２）幼小連携・接続に関して

具体的な取組

- ・地域の小学校との交流活動の継続，連携（事前・事後研修・個々子どもの育ちについての話し合い）・就学前，就学後の連絡会
- ・「就学支援シート」の活用，「個別の指導計画」の作成・引き継ぎ
- ・“夢中になって遊び込む”経験を積み重ね，意欲的に何事にもかかわろうとする態度を育む教師の援助や環境構成を考える。「学びに向かう力」を意識した保育を推進し，小学校へつなげる。
- ・「親子で絵本！」のノートを活用しながら，絵本や物語に親しみ，創造する楽しさを味わうなど，言葉や文字，数量に対する感覚の基礎を培う。

<div> <div>(取組結果を検証する) 各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児期の終わりまでに育てたい10の姿を意識した教育課程の作成・見直し ・ 接続期を意識した5歳児教育課程の検討 ・ 小学校との交流や施設利用状況, 交流保育の事前事後研修の実施 ・ 「親子で絵本!」の活用状況 ・ アンケート項目 <div> <div>① 「幼稚園は小学校・中学校・家庭や地域とのつながりを大切にしている」</div> <div>② 「子どもは絵本を読むことが好きである」</div> </div> </div>	
中間評価	
<div> <div>各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児期の終わりまでに育てたい10の姿を意識した教育課程の作成・見直し ・ 接続期を意識した5歳児教育課程の検討 ・ 小学校との交流や施設利用状況, 交流保育の事前事後研修の実施 ・ 「親子で絵本!」の活用状況 ・ アンケート項目 <div> <div>① 「幼稚園は小学校・中学校・家庭や地域との</div> <div>つながりを大切にしている」</div> <div>とてもそう思う 68%・概ねそう思う 32%</div> </div> <div> <div>② 「子どもは絵本を読むことが好きである」</div> <div>とてもそう思う 65%・概ねそう思う 26%</div> </div> </div>	
自己評価	<div> <div>分析 (成果と課題)</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年間計画を立てて見通しをもって取組をしていきたいが, 感染予防のため, 例年通りにはいかなかった。しかし, 1学期終わりには, 小学校のグラウンドに年長児が走りに行ったり, 給食当番の様子を離れて見せてもらったり, 校長先生や教頭先生との出会いがあるなど, 児童との実際の交流は難しかったが, 隣接し, 自分たちが通う小学校へと思いをつなぐ機会ももてた。 ・ 夏季にある幼小中合同研修にも参加し, 同じ地域の子どもたちの良さや課題についても教職員間で共有することができた。 ・ 幼稚園教育理解推進事業の研究発表のビデオを小学校の先生方と視聴し, 幼児期の育てたい10の姿について話し合うことができた。 ・ 幼稚園での特別支援教育の研修に小学校の先生にも参加していただき, 発達を促すために必要な幼児期の経験の大切さを改めて意識することができた。 ・ アプローチカリキュラムとしての週案の作成については, 見直していきたい。 ・ 今年度は毎週の貸出し以外にも, 夏休みの貸出日を設け, 親子で絵本に親しむ機会を増やした。定着してきているが, 子どもが自分で読むだけでなく, お家の人に読んでもらうことに幼児は喜びがあり, 心が育つことを繰り返し伝えていきたい。 </div>
	<div> <div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児期の終わりまでに育てたい10の姿を踏まえ, より接続期を意識した5歳児後期の教育課程を編成し, 週案の内容を充実していく。 ・ 感染予防を意識しながら, 校庭の活用や教職員の交流など, より安心感をもって子どもたちが就学に向かっていけるように心をつないでいく。 ・ 幼稚園の保育の様子を小学校の先生方や地域の方に参観していただく機会を設け, 幼児期の子どもの発達や幼稚園教諭の環境構成や援助についてより理解を深めてもらう。 </div>
	<div> <div>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 連携のエピソード検討 ・ 前期との比較, 検討を行なうことで取組の改善を検討 ・ 『親子で絵本』の活用度 ・ 預かり保育での校長先生による読み聞かせ実施 ・ アンケート項目 <div> <div>① 「幼稚園は小学校・中学校・家庭や地域とのつながりを大切にしている」</div> <div>② 「子どもは絵本を読むことが好きである」</div> </div> </div>
	<div> <div>学校関係者による意見・支援策</div> <p>今年度は小学校と中学校との交流は感染予防のために難しかったが, 幼小の教員が互いに保育や授業を見合い, 子どもの姿を通して互いの教育への理解を深めていってほしい。</p> </div>
学校関係者評価	

最終評価

<p>〔中間評価時に設定した〕各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エピソード検討・前期との比較、検討を行なうことで取組の改善を検討 ・『親子で絵本』の活用度 親子で絵本のつづやきの確認を行い、活用度を見直す（達成者の増加） ・預かり保育での校長先生による読み聞かせ実施 ・アンケート項目 <p>①「幼稚園は小学校・中学校・家庭や地域とのつながりを大切にしている」とてもそう思う 76%・概ねそう思う 20%</p> <p>②「子どもは絵本を読むことが好きである」とてもそう思う 66%・概ねそう思う 30%</p>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までのように、小学校・中学校の児童生徒と触れ合う機会をもつことはできなかったが、校長先生に読み聞かせに来ていただく、教員が参観や園内展、図工展、連絡会に参加し合うなどし、心をつなぐことは意識してきた。また、中学校からは、中学3年生の手作り絵本を子ども一人一人に配り、その感想を保護者と子どもに書いてもらうという新しい取組もご提案いただき、教員の工夫や新しい発想が重要であることを再認識した。 ・小学校の校庭を風あげやマラソンで利用する機会もあり、隣接する小学校への憧れや親しみは少しずつ子どもの心に積み重なっていたと思われる。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>同じ板橋学区の子どもたちが「会えなくても心はつなが」ことができるように、ICTを活用し、教員の柔軟な発想を活かしていきたいと考える。また、保護者へも、引き続き板橋学区の特徴でもある幼小中のつながりを、今まで以上に発信していけるようにしたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>コロナ禍で会うことはできなくても、生活の中で隣接している小学校への思いはつないできているので、今後も幼小中が連携している良さを大事にし、アピールしていったほしい。</p> <p>中学生も小さい子どもを前にすると、表情や態度、言葉づかいまでが優しくなる。今後のかかわりを大事にしてほしい。</p>

（３）預かり保育に関して

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育指導計画の作成、実践、見直しをし、短時間預かり保育における遊びの多様性を図る。 ・園生活が充実し、無理なく過ごせるように自分のやりたい遊びを実現できるような環境づくりや支援をする。 ・担任や教職員が緊密な連携を取る（責任体制と指導体制を整える） ・預かり保育の主旨を伝え、保護者への理解を求め、連携を深める 	
<p>〔取組結果を検証する〕各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の参加人数 ・アンケート項目から <p>①「にっこり広場（預かり保育）に喜んで参加している」とてもそう思う 73%・概ねそう思う 27%</p>	

中間評価

<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の参加人数 休園期間や園児数減少により数値的には伸びてはいない。 ・アンケート項目から <p>「にっこり広場（預かり保育）に喜んで参加している」とてもそう思う 73%・概ねそう思う 27%</p>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育を楽しみに出来る内容やゆったりとした雰囲気、環境構成が子どもや保護者の間に浸透して安心して預かり保育の時間を過ごしている。中には、昨年までの経験からか簡単に預かり保育は頼めないという思いもあるようだ。保護者にとっての子育て支援の役割を担っていることを教職員が理解していけるようにしたい。また、保育園が近隣に多い地域であるので、公立幼稚園が18時までの預かり保育をしていることが外部の方には浸透していないことも大

	<p>きな課題である。繰り返し地域に伝えていく必要がある。行事後の預かり保育に関しては、子どもの疲れ具合など心配な面もあるので引き続き配慮していきたい。内容については、感染予防を引き続き行いながら、充実したものにしていきたいと考える。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育に参加することを楽しみにする子どもが増えるように子どもの様子を見ながら、必要に応じて新しい取組や遊びを取り入れる。 ・幼稚園でも保護者の就労の支援、子育ての支援ができるという役割を自覚する。
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の参加人数 ・アンケート項目から 「にっこり広場（預かり保育）に喜んで参加している」
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>預かり保育での読み聞かせなど、協力できることはさせてもらうので声をかけてほしい。近隣に保育園も多くあるが、幼稚園での預かり保育が18時までというのは、仕事を終えて迎えに行き、家庭に帰り、食事やお風呂を済ませ、子どもが就寝するまでにはちょうどよい時間帯である。それ以上遅くなると子どもに負担がかかるだろう。</p>

最終評価

	<p>（中間評価時に設定した）各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の参加人数 上昇傾向にある。就労される保護者（母）も増え、新2号認定の子どもが増加した。 ・アンケート項目から 「にっこり広場（預かり保育）に喜んで参加している」 とてもそう思う 60%・概ねそう思う 26% 「早朝預かり保育が実施されることは、よいと思う」 とてもそう思う 74%・概ねそう思う 26%
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>・預かり保育を楽しみにできるような内容や預けやすい雰囲気をつくることで、利用者が増え始めている。また、子どもの成長と共に新2号認定の子どもが増え、「仕事をしていても幼稚園に行ける」ということが在園児の保護者の中に浸透しつつある。また、次年度は、早朝預かり保育を始めることについても、概ね理解をいただいている。地域の方にも伏見板橋幼稚園の預かり保育の内容について知ってもらい、子育てをしている方にとって居心地の良い幼稚園になるように努力していきたい。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の内容の充実（遊具の見直し、環境など）と保育との関連性を見る。 ・より預けやすい取組となるように、教職員で共通理解していく。 ・教職員の時間外勤務の超過を減らすなど。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>早朝預かり保育8時が始まることは、喜ぶ人もあるだろうが、先生たちの負担にならないようにと願っている。保育園に近いように感じるが、子どもの主体性を大事にする京都市立幼稚園の良さを変わらず大事にしてほしい。</p>

（４）子育ての支援に関して

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未就園児こっこ組（0～4歳児親子）の曜日を増やし、発達に応じた遊びや場を提供し、子育ての楽しさを共有したり、乳幼児期の発達を知る機会にしたりする ・園庭開放の時間を設け、心と体を解放して遊ぶ場を提供する ・在園児保護者と未就園児保護者が子育てについて語り合える場（説明会）を提供する。
--

- ・ほっこり子育て広場の取組として、誕生会の後、保護者と園長との懇談の場を設ける。
- ・季節の絵本の話の聞いたり、飾りづくりをしたりするなど保護者のつながりや感性を豊かにする機会を設ける。
- ・社会福祉協議会「福ちゃん組」における連携、及び地域子育てステーション事業における連携をする。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・子育て支援の取組（こっこ組）に対する参加人数
- ・おひさまタイム（子育て語り合い）での話し合いの様子
- ・未就園児保護者の話の内容から

中間評価

各種指標結果

- ・子育て支援の取組（こっこ組）に対する登録人数 こっこ組登録数 60人
- ・おひさまタイムでの話し合いの様子から 公立幼稚園の良さを感じて入園したことを喜んでくださっている保護者が多い。給食ありやバス通園、早朝保育など実施している近隣園が多数ある中で本園の教育を理解して幼児期の子どもにとって一番ふさわしいと考えてくださっている。早く子育てから手を引きたい気持ちもあるが、子どもはすぐに大きくなっていく。今のかけがえのない愛らしい時期の成長を見逃したくないと思われる保護者が多い。子育てを大事に考えている保護者が多いので、子どもたちも安定し、より保育の充実を行うことが出来、感謝している。我が子はもちろん他の子どもに対しても愛情をもってかかわってくださる保護者が非常に多い
- ・未就園児保護者の話から こっこ組のイベントもいろいろあり、曜日を増やしてもらい遊びの場が増えた。広い園庭で遊べるのが魅力的である。こっこ組に関しては学区関係なく利用できるのがよい。在園児の子どもたちがやさしくしてくれる。小学校がすぐ隣りにあり、年長児などは就学に向けて期待が持てる。先生方も親切である。など

自己評価

分析（成果と課題）

- ・未就園児こっこ組（0～4歳児親子）として、発達に応じた遊びや場を提供し、子育ての楽しさを共有できる場としている。今年度は感染予防でスタートが遅れたが、徐々に参加者が増えてきている。曜日を増やしたり、ポスターやチラシを作ったりしたことで成果が表れていると考える。
- 園長自らが動き、これからもより良い未就園児の取組を考えていきたい。母子を必要以上に離さないことが、将来自立へと向かう近道であることを今の園児の育ちからも実感しているが、世の中の動きに合わせながら、新しい取組を考えていきたい。

分析を踏まえた取組の改善

- ・近隣の小規模保育事業、乳児保育施設などに幼稚園での預かり保育の取組を知らせ、人と人とのつながりから、公立幼稚園の存在や良さを広めていく。
- ・今年度は地域のさまざまな行事がなくなったが、これからも積極的に参加し、公立の存在を知っていただく。
- ・本園への入園願書を受付けした3歳児対象に、年明けから親子での登園日を設け、入園前の不安を解消できるようにしていく。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・子育て支援の取組（こっこ組）に対する参加人数
- ・おひさまタイム（子育て語り合い）での話し合いの様子
- ・未就園児保護者の話の内容から

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・今は働きたい女性も増えてきて、幼稚園のニーズも減ってはきているが、公立幼稚園の入園募集に協力できることはしていきたいと思う。
- ・園長会だけでは難しいと思うが、私立も公立も、今はうまくお互いに協力し合っていけるようにしていけばよいのではないかな。
- ・公立は困りを抱えた子どもや家庭を支えるという大きな役割を担っている。一人一人大切に育ちを支えていることに自信をもてばよいのではないかな。

最終評価

	<p>（中間評価時に設定した）各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育て支援の取組（こっこ組）に対する参加人数 前期：こっこ組登録数 60人 後期：こっこ組登録数 83人（3月現在）へと増加 おひさまタイム（子育て語り合い）での話し合いの様子 コロナ禍の中で縮小しながら行う。 未就園児保護者の話の内容から
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の中であったが、子育て支援のチラシを配布、区役所に置く、HPに載せるなどコッコツと取り組むことで、乳児の参加が増えるようになっている。残念ながら、在園児と触れ合うことは感染予防のために控えていたが、園庭利用などで在園児の保育の様子や育ちを知っていただくことはできた。 ウサギやオカメインコ、メダカなど生き物を飼育することで、乳児が親しみをもっている様子が伺える。乳幼児の子どもたちの豊かな感性が育つような取組をこれからも進めたい。 こっこ組は、0～4歳児親子が対象でいろいろな年齢が集まるため、できる内容に限界がある。就園する前の2歳児親子は、心も体も著しく発達してくる時期なので同じ年齢同士が集い、友達を意識できるような内容、保護者同士のつながりができる取組（ぷちたんぽぽ組）を進めていく予定である。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> こっこ組は、0～4歳児親子が対象でいろいろな年齢が集まるため、できる内容に限界がある。就園する前の2歳児親子は、心も体も著しく発達してくる時期なので同じ年齢同士が集い、友達を意識できるような取組（ぷちたんぽぽ組）を進めていく予定である。板橋学区や近隣の地域の親子が安心して過ごせる場をつくっていききたい。 小規模保育園にも、声をかけて、踏み込んだ連携ができるように考えていく。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>コロナ禍の中、のびのびと思いきり遊べる環境があることは、保護者にとって本当にありがたいと思う。時間に区切られることなく、過ごせるのは乳幼児期しかない。幼稚園で大事な時間を過ごしてほしい。</p>

（５）地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 「板橋祭」や「親と子の秋の集い」への参加。 カレーパーティーの買い物体験（年長児）。 地域の人材を活用したもちつきの実施。 女性会によるお茶会体験や、地域のお年寄りとの触れ合い交流（年長児）。 「生き方探究・チャレンジ体験」や幼中交流保育における中学生との交流。
	<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 交流の回数や内容 子どもの姿や保護者・地域の方の声 アンケート項目 <p>（後期）「子どもは地域行事（板橋祭・親と子の秋のつどい等）に喜んで参加している」</p>

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 交流の回数や内容 子どもの姿や保護者・地域の方の声 アンケート項目 <p>「園は地域とのつながりを大切にしている」 とてもそう思う 73%・概ねそう思う 27%</p>
--	---

自己評価	分析（成果と課題） 今年度は感染拡大予防のために多くの地域行事や小中学校との交流が中止となった。そのために、評価としては昨年度より低くはなったが、昔から脈々と受け継がれている連携が保護者の中に根付いていることもあり、理解は得られたと思われる。運動会などは制限をしながらの中ではあったが、PTAの方の協力を得て、保護者に見ていただくことができた。学校運営協議会の方にも子どもたちの成長や幼稚園の保育を見ていただき、終始温かい雰囲気で見ることができた。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・感染予防を意識しながら、地域の方や学校運営協議会の方と触れ合う機会を考えていく。 ・保育参観に学校運営協議会の方々や小学校の先生を招待し、園の取組や子どもの姿を知っていただく。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 <ul style="list-style-type: none"> ・前期との比較、検討を行い取組の改善を図る ・子どもの姿や保護者・地域の方の声 ・アンケート項目 「園は地域とのつながりを大切にしている」
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・運動会では、子どもの発達に合わせたプログラムであり、用具なども工夫されていた。先生方がこれまでの遊びや生活を話されることも愛情が感じられた。 ・今年度は地域行事がなくなり、仕方がない。また、つながりを持てるちがう方向を考えていきたい。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果 <ul style="list-style-type: none"> ・前期との比較、検討を行い取組の改善を図る ・子どもの姿や保護者・地域の方の声 ・アンケート項目 「園は地域とのつながりを大切にしている」 とてもそう思う 76%・概ねそう思う 20%	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 <ul style="list-style-type: none"> ・残念ながら、地域とのつながりをもつ機会（板橋祭や秋のつどい、防災訓練参加、もちつきなど）は減ってしまったが、今までの取組の成果やコロナ禍の中で、子どもたちのために何かできることはないか、保護者に子どもの成長を感じてもらう機会をもつことはできないかと、保育や行事を教職員で見直し、意見を出し合い、形を変え、実施したことで概ね理解を得られたと考える。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・コロナが収束に向かうことを願いながら、今までとは形を変えつつ、地域の方々と触れ合える機会をつくっていききたい。 ・学校運営協議会の方々に、幼稚園の保育の様子を見ていただき、園の取組や子どもの育ちに触れていただきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 今年度はコロナ禍でいろいろな行事など、地域とかかわる機会が減ってしまったが、幼小中が隣接している利点を感じ、親子で地域を大切に思う気持ちをもってもらえることがうれしい。

（6）教職員の働き方改革について

重点目標 ○日々の教育活動を見直し、幼稚園における「働き方改革」を進め、より一層の保育の質向上を図る
--

<div>具体的な取組</div> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週水曜日ノー残業デーとする。 ・土日、祝日及び、緊急の場合を除き、平日の18時以降の電話対応は控える。 ・教職員同士のコミュニケーションを大事にし、互いの思いを共有し、支え合えるようにする。
<div>(取組結果を検証する) 各種指標</div> <ol style="list-style-type: none"> ① 「出退勤管理システムによる客観的な出退勤時間の記録を通して勤務時間を意識している」 ② 「日々の保育で健全に子どもたちと向き合う時間が確保できている」

中間評価

<div>各種指標結果</div> <ol style="list-style-type: none"> ① 「出退勤管理システムによる客観的な出退勤時間の記録を通して勤務時間を意識している」 勤務時間が管理されることで教職員の中で時間外勤務を控えようとする意識にはなっている。 ② 「日々の保育で健全に子どもたちと向き合う時間が確保できている」 教職員は全て子どもたちに真摯に向き合おうと健全な生活を心がけている。 ③ 教職員の年休取得状況 夏季休業中の年休取得状況は職種により差はあるが、概ね取得できている。
<div>自己評価</div> <div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> ・感染予防拡大でさまざまな行事を控えることになったり、出張を控えたりすることになり、行事内容やもち方の見直しをすることができた。時間にゆとりはできたが、今まで経験をしたことがない三密を避ける保育、消毒作業の負担、健康管理などもあり、違う業務が増えた。校務支援員や学校支援員の存在が非常にありがたかった。 ・時間外勤務を控えようとする意識はあるが、管理職に関しては課題が残る。 <div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、行事内容やもち方の見直しを図る。 ・検討事項の精選や事前事後伝達、時間を決めるなどし、会議時間の短縮と効率化を図る。 ・担任業務の繁忙を校務支援員に協力してもらうことで、分散化することができるよう今後もしていく。 <div>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</div> <p>「出退勤管理システムによる客観的な出退勤時間の記録を通して勤務時間を意識している」 「日々の保育で健全に子どもたちと向き合う時間が確保できている」 「教職員の年休取得状況」</p>
<div>学校関係者評価</div> <div>学校関係者による意見・支援策</div> <p>働き方改革をうまく活かしながら取組の工夫を行なってほしい。</p>

最終評価

<div>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</div> <p>「出退勤管理システムによる客観的な出退勤時間の記録を通して勤務時間を意識している」 「日々の保育で健全に子どもたちと向き合う時間が確保できている」 「教職員の年休取得状況」</p>
<div>自己評価</div> <div>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月の出退勤システムの記録を見ることで、時間外勤務の時間数を意識して勤務するようになりつつある。 ・コロナ禍で大変なこともあったが、今までの保育のあり方を見直す機会になり、日々健全に勤務しようとする姿勢が見られた。 ・冬季休業期間の学校閉鎖日推奨日に全教職員が年休を取得することができた。

	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <div>・次年度は，早朝預かり保育を８時から始めることもあり，教職員の勤務時間についても，今まで以上に意識していく必要がある。長く続けていくことができるような方法を模索していきたい。</div>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <div>働き方改革に逆行しないように，新しい取組を工夫してほしい。</div>